

## 創作歌物語

Practice report of the class to create an uta monogatari (song story)

国語科 塚越健一朗

### <要旨>

本授業実践では、生徒たち自身で和歌を選び、その和歌をもとにして歌物語を創作するという単元を設定した。その際に、自分たちが選んだ和歌の歌風をしっかりと物語に反映させることを条件とした。本単元に入る前に、所謂「三大和歌集」と言われる『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の各和歌について学習した。『新国語総合ガイド』を開けば、各歌集の歌風は解説されている。しかしながら、それらの歌集から自分たちで和歌を選び、歌風に合った物語を創作することにより、単なる解説から得た知識だけではなく、身をもって各和歌集の歌風も理解できたと思われる。それと同時に、「和歌」と聞くと難しいと身構える生徒が大半だが、自分達が選んだ和歌をもとに物語を紡ぎ出していくという活動を通して、少しでも和歌それ自体と歌物語を面白いと感じることができたと考えている。

<キーワード> 歌物語 『伊勢物語』 三大和歌集 評価基準 図書館 ジャパンナレッジ

### 1. はじめに

生徒から「古典を学ぶ意義」はどこにあるのか、という質問をよく受ける。古典を嫌う主な理由として、単語の意味や文法、当時の習俗などの古典常識がわからないという点が挙げられるのは周知のとおりであろう。結局読んでいて「よくわからない」というところに、多くの生徒が古典を学ぶ意義を見出せない大きな要因があると思われる。その最たるものに和歌が挙げられる。「和歌」とは何か。むろんの事漢詩に対しての日本の歌の事であるが、狭義には例えば、谷知子氏は『和歌文学の基礎知識』(1)の中で、「和歌が和歌たるゆえんは、五七五七七音の定型である」と定義されている。また、氏は「日常的ではなく、優美であること、これが和歌の重要な条件だったので。」と述べられている。生徒が和歌を難しいと感じる所以が正にここにあらう。ただでさえ聞き慣れない古文の単語の、更に見覚えのない所謂「歌語」が使われているのである。しかしながら、我々が現在使用している言葉は古代から連綿と続いているものの延長線上にあり、授業で読む古典の作品との間に断絶があるわけではない。

学習指導要領において古典の指導に関しては、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導」が重視されている。本単元では、生徒自身が和歌集から和歌を選び、その歌風を生かした歌物語を創作するという活動を設定した。単に古典の作品を受動的に読むだけではなく、歌集から和歌を選ぶことから始まり、選んだ和歌の歌意を解釈し、自分たちの言葉で物語を生み出すという活動を通じて、

古代人の想いと現代を生きる生徒たちの想いが交わればと考えた。そのことによって、古典そのものに親しみをを感じる態度を養いたい。

### 2. 歌物語を創作する試み

#### 2-1. 歌物語とは

2学期の最初に、文学史上歌物語の初発である『伊勢物語』から教科書所収の「芥川（第六段）」、「東下り（第九段）」、「筒井筒（第二十三段）」を学習した。正に平安貴族が理想とした「みやび」の精神を基調とした物語たちである。「歌物語」とは、平安文学における物語の様式の一つであり、和歌を中心として構成された短編物語と定義される。物語中で詠まれている和歌が元々所収されていた和歌集にあたってみると、詞書がみられるものがある。「詞書（ことばがき）」とは、その歌の作られた場所、時、事情などを簡単に紹介したものである。歌物語とはそういった詞書を膨らませて形作られた物語とすることができよう。

#### 2-2. 歌物語を創作するにあたって

今回は歌物語を創作するという活動なので、当然のことながら上述の定義に沿う事を最低条件とした。すなわち、物語中に和歌を一首以上配し、その和歌を中心とした話を展開させるということである。その際に、自分たちが選んだ和歌の歌風もしっかりと物語に反映させることを注意点とした。

それ以外に関しては、物語中の時間は古代でも現代で

も良く、従って古文で書いても現代文で表現しても良いこととした。この点に関しては、そもそも古文を一から書き上げるのに時間を要すること、古代も現代も人の気持ちは変わっておらず、今回の活動の目的である選んだ和歌それ自体の歌意をまずはしっかり読み取ること重点を置いたためである。

### 3. 授業実践

#### 3-1. 三大和歌集の歌風について

歌物語の創作に入る前に、課題プリント①を配布し、所謂「三大和歌集」と言われる『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の各和歌について学習した。まず知っていることを生徒に挙げさせたところ、「ますらをぶり」、「勅撰」、「紀貫之」、「六歌仙」などの発言があった。生徒の発言を受けながら、各和歌集について質問を繰り返しながら概説をしたが、文学史的な知識に関しては全体的に曖昧な印象を受けた。一方個々の歌集に関しては、特に『万葉集』については中学校時代に細かく学習している生徒もいた。

『新国語総合ガイド』(2)を開けば、各歌集の歌風は解説されている。そこで改めてガイドを使いながら各和歌集の歌風を押さえた上で、教科書の和歌の単元を開き、時間の許す限り歌を具体的にみていった。前時まで『伊勢物語』を読んできたわけだが、その中で和歌の修辞についても学習している。三大和歌集における表現の特徴をそのような和歌の修辞にも着目させながら押さえていった。

この時点で、各自にこの後歌物語を創作する上で選みたい和歌が所収されている歌集は三大和歌集のうちのどれかを直感的に選ばせた。その後3～4人のグループにし、グループ内でどの和歌集を選ぶか相談する時間を持った。

ここまではある意味受身の学習である。今回の活動では自分たちで選んだ和歌集から和歌を選び、その和歌集の歌風に合った物語を作成することにより、単なる解説から得た知識だけではなく、身をもって各和歌集の歌風を理解することも目的としている。それと同時に前述の通り「和歌」と聞くと難しいと身構える生徒もいるかと思われるが、自分たちで選んだ和歌をもとに物語が紡ぎだされていくという活動を通して、少しでも和歌とそれを元にした歌物語を面白いと感じてくれたら良いと考えた。

#### 3-2. 歌物語に使用する和歌の選定と解釈

和歌の選定とその和歌の解釈をする活動は、図書館で行った。最初に課題プリント②を配布し各グループで選んだ歌集を元に和歌を選ばせた。ちなみに今回の活動は高校一年生の4クラスで行ったが、『万葉集』を選んだのは13グループ、『古今和歌集』18グループ、『新古今和歌集』10グループであった。やはりこの三つの歌集の中では馴染みのある『古今和歌集』を選んだグループが多かったようである。ちなみに1グループも『万葉集』と『新古今和歌集』を選ばないクラスもあった。結論から言うと、今回創作された歌物語は恋愛を扱ったものが多数みられたため、その点からも『古今和歌集』所収の和歌が題材として選びやすかったと考察される。この点に関しては後ほど生徒の感想のところでも触れたいと思う。

和歌の選定を行う際には、今回の活動に関してあらかじめ図書館司書教諭に伝えておき、関連書籍書架を作っておいてもらった。そこに準備されていた本とともに全集本を使用させた。それらの本に加えて、各グループにiPad miniを2台ずつ貸し出した。iPad miniでは学校の図書館のHPを通してジャパンナレッジLib(3)にアクセスし、小学館の新編日本古典文学全集などを閲覧することができ、また、詳細な語彙検索をすることもできる。同時に多数のグループが全集本を使用すると使いたい本が見られなくなるという問題が発生する。それを解消できるだけでなく、全ての生徒が何らかの活動を行えるという利点もある。本とデジタルデータとお互いに補完しあい、それぞれの利点を生かし和歌を選定する活動を行うことができた。



図1 図書館での様子

このようにして候補として挙がった和歌に関して、そのまま全集本や研究書、ジャパナレッジLibなどを使用し、各グループで解釈をさせた。ここでの和歌の解釈が、この後創作する歌物語の骨格となる。そのために多少の時間を取り、全集本などの解釈を参考にさせながら、自分達の解釈をしっかりとさせた。

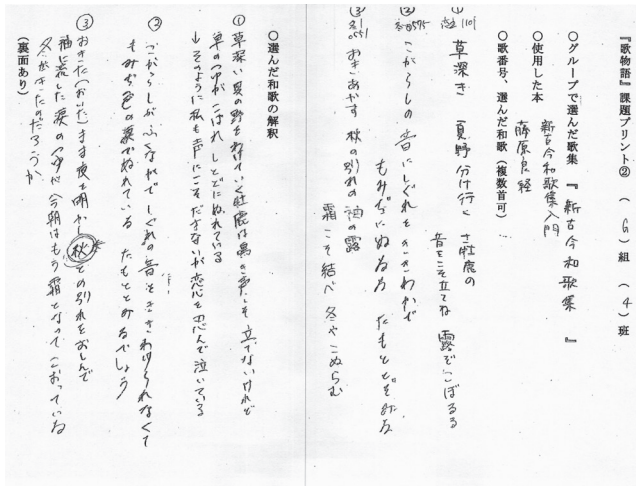


図2 解釈の一例

### 3-3. 歌物語の構想と仕上げ

前時の解釈が終わった後と、次の時間は教室に戻り、創作する歌物語の構成を考え、どのように展開させるかその構想を練り、物語を書き上げる時間とした。

教室でも iPad mini を各グループに配布した。ジャパナレッジLib のもう一つの利点として教室で使用できる端末さえあれば、全集本を閲覧し詳細な語彙検索をすることができる点が挙げられる。毎回図書館での活動が出来ない場合や、全集本はやはり簡便に持ち運ぶことができないので、ある程度の下調べと材料さえ揃えてあれば、続きの作業を教室で行うことができる。

この時間では活動に入る前に、まずループリック(資料:配布プリント参照)と原稿用紙、自由に使用して良いB4用紙を配布した。ループリックに関しては、「読解力」、「オリジナリティー」、「世界観」、「プレゼンスキル」という評価項目を立て、それぞれ「優秀」、「良」、「発展途上」という評価基準を作成した。これらの評価項目を熟読し、歌物語の構成を考えるにあたり必要とされる観点、また次時に発表するにあたり評価される観点を踏まえた上で構想を練ることを指示した。

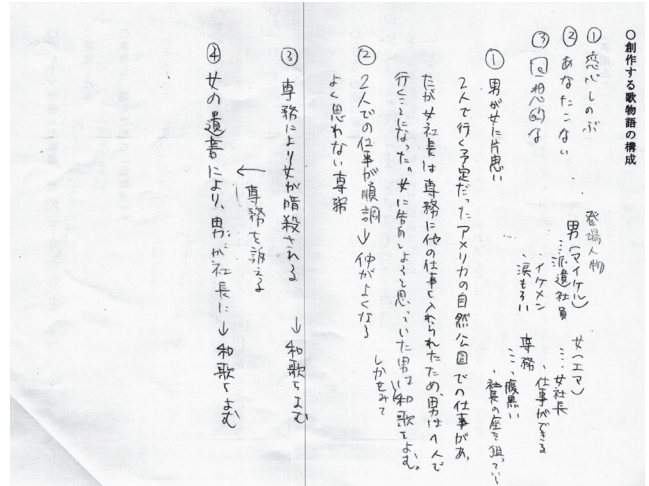


図3 物語の構成の一例

原稿用紙に関しては、本校で独自に発注している800字詰めのもを配布した。この原稿用紙には上段に空欄の枠が付いており、物語を書く際にも発表をする際にもその枠を有効に使用するように指示を出した。

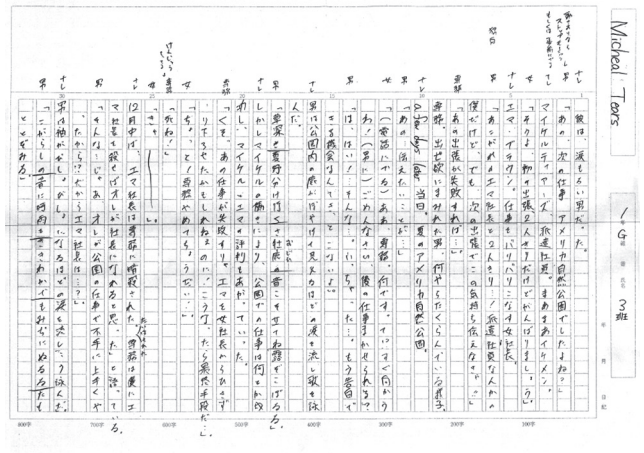


図4 原稿用紙の一例

例えばこの原稿用紙のように、ナレーションや配役など発表をする際の役割分担や、物語の頭注を記すなど、生徒達は各グループで工夫を凝らしこの枠を使用していた。

また、『伊勢物語』を学習した際に教科書の挿絵を読解の一助とした点を踏まえて、歌物語を創作するにあたり絵なども自由に活用して良いという条件にした。グループによっては、印象的な一場面を絵にしたり、パワーポイントを使い紙芝居風にしてみたりなど、こちらも様々な工夫がみられた。



図5 挿絵の一例

### 3-4. 発表と評価

最終時に発表と評価を行った。まず評価表を配布し前時に配布したループリックと合わせて、改めて評価のやり方を確認した。発表時間は各グループ5分とし、実物投影機を使用して最初に図2にある課題プリント②を提示し物語中で使用した和歌と解釈を教室内で共有した。その上で各グループの発表形式で歌物語を発表した。

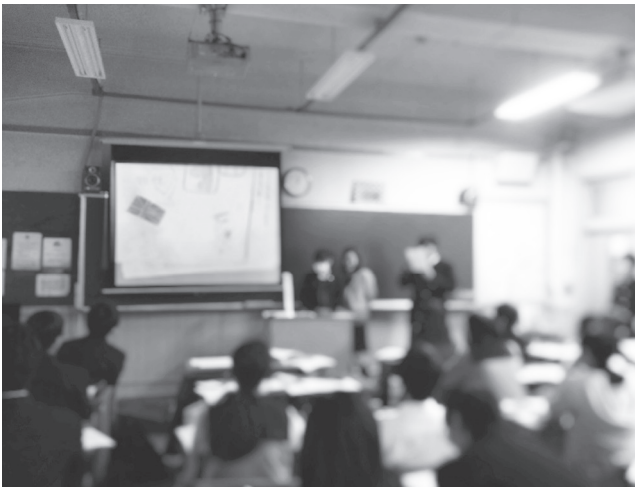


図6 発表風景

上図の光景のように絵なども提示しながら劇風にするなど工夫して発表がなされたが、その内容としては現代の恋愛ものを扱った物語が多いという傾向がみられた。ただ、各クラス数グループにおいて、会社内での人間関係や時代を古代に設定したものなどバラエティに富んだ内容の歌物語が創作された。和歌に関して、最初に詠み上げるものなどもあり、今回の活動の目的通り、話の要をしっかりと押さえて作中に配されているものがほとんどであった。

### 3-5. 生徒の感想

発表を終えて、以下生徒の感想をいくつか紹介したい。

- ・和歌から根拠となる部分をひっぱり出して物語をつくると、「何故？」という部分が追求されて、良かった。
- ・和歌の内容を理解するのはやったことがあったが、自分たちで選んだ和歌を理解した上で自分たちなりの解釈で物語を作る、というのは初めてで新鮮だった。
- ・歌集から歌物語を作るのは容易なことではなかった。なぜなら昔の価値観と今の価値観が違うからだ。
- ・歌物語の創作は思ったより難しかった。最初は、ストーリーを考えるとところから始めたが、班で考えても案は出なくて、とても困った。そこで、歌の解釈についても一度深く考えてみたら、ストーリーが何となく思い浮かび、歌の解釈を深く理解していないと歌物語は書けないなと思った。
- ・万葉集から歌を選んでいるときに、昔の人は熱い恋愛をしていたのだと感じた。私のイメージでは昔の人はあまり自由な恋愛をしていないと思っていたけれど歌を読んでもみると、みんな想い人への愛を綴っていて、昔の人の方が一途に相手を想っていたのかもしれないと思った。
- ・和歌というとても遠いものとしてのイメージがわきがちだが、現代人の私たちが現代的な世界観の物語にも和歌を入れられるということで和歌をよんだ人たちの気持ちが何となく身近に感じた。
- ・読み手にわかりやすく伝えようとする力やその歌の解釈につながるように物語をつくる想像力がとても大切だった。古代の人たちもこれ以上に苦勞を重ねて今私たちが読んでいる歌物語を作っていたんだなと思うと歌物語の見方も変わる気がした。

#### 4. まとめと今後の課題

創作歌物語という今回設定した単元の主な目標は、「三大和歌集」の歌風を理解した上で自分たちが選んだ和歌をしっかりと解釈し、それらの歌風を生かすというものであった。上述の生徒の感想からもわかる通り、その目標はある程度達成できたのではないかとと思われる。生徒はこれまで和歌といえば、暗記などを通して遠い世界のことという認識が多数を占めていたのではないかとと思われる。しかし本活動では物語を紡ぎ出すために、自分たちなりの解釈をして深く心情を理解する必要がある。この活動を通して和歌というものを、ひいては和歌を詠んだ古代の人をより身近に感じることができたのではないかとと思われる。発表としてはともすると古典の時間からは離れてしまったきらいもあるかも知れない。しかし、国語という教科の中でとらえた時に、今回の活動は読むだけでなく、書くこと、話す・聞くこと、これらの能力を伸ばすことができる活動であったと感じている。

古典の授業としては、この先に伝統文化を理解するという観点から、是非この創作した歌物語をせっかく描いた絵を含めて絵巻物にしたいという思惑があった。時間の制約もあり、そこまでの活動に持って行けなかったことが課題として残るが、今後は是非芸術科とも協力し、卷子本に仕立て上げ、絵巻物の鑑賞という授業を実践してみたいと考えている。

#### 【注】

- (1)谷知子『和歌文学の基礎知識』角川学芸出版, 2006
- (2)『新国語総合ガイド』京都書房, 2017
- (3)ジャパンナレッジLib

約50種類の辞事典、叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイト。基本検索はすべての辞事典を横断検索しやすいようにシンプルな作りをしている一方、詳細（個別）検索では各辞事典に応じたオリジナルな絞り込み機能（ファセット）を加え、より詳しく検索できるようになっている。

【資料：学習指導案】

## 国語科学習指導案

日 時：平成 27 年 11 月

対 象：1 年

学校名：東京学芸大学附属高等学校

授業者：塚越健一朗

### 1 単元名 書くこと【伝統文化】

創作歌物語 和歌より『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』（精選国語総合古典編 筑摩書房）

### 2 単元の目標

- ・「三大和歌集」に関して、教科書に採録された和歌からそれぞれの歌集の歌風を理解し、それぞれの和歌の歌意を読み取る。
- ・自分たちが選んだ和歌を使い、その歌風を生かして歌物語を創作する。
- ・創作した歌物語をループブックに基づいてお互いに評価する。

### 3 単元の評価基準

読む能力	話す・聞く能力	知識・理解	関心・意欲・態度
○選んだ和歌を正しく解釈し、その上で自分たちなりの解釈を加えて物語り作成に生かそうとしている。	○自分たちの創作した歌物語を、工夫して発表しようとしている。 ○他のグループの発表をしっかりと聞き評価しようとしている。	○三大和歌集に関して、文学史的な知識をしっかりと理解している。	○教材について興味・関心や課題意識を持ち、主体的に学習や創作に取り組もうとしている。 ○グループの話し合いに積極的に参加し、和歌や歌物語への関心を深めようとしている。

### 4 指導観 ※本稿本編参照

### 5 年間指導計画における位置付け

【書く・読む】歌物語『伊勢物語』の読解と鑑賞を行い、助動詞等の定着を図る。

【読む】漢詩「唐詩」全般を読み、詩人の心情と共に当時の社会情勢を理解する。

## 6 単元の指導計画と評価計画（6時間扱い）

時	目標・内容・活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
第1時	<p>○教科書所収の『万葉集』・『古今和歌集』・『新古今和歌集』の和歌について学習する。</p> <p>○グループで歌を選ぶ際にどの歌集を選ぶのかを話し合う。</p>	<p>・課題プリント①を配布し、三大和歌集に関する生徒の現状の知識を把握する。</p> <p>・『新国語総合ガイド』（京都書房）の「三大歌風」のページを参考にしつつ、教科書「和歌」の単元に所収の和歌を具体的に見ながら各歌集の歌風と歌意を学習させる。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>・意欲的に三大和歌集の歌風と和歌の歌意を理解しようとしているか。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>・グループでの話し合いに積極的に参加しているか。</p>
第2・3時	<p>○図書室において、全集・ジャパンナレッジ等で和歌を調べ、歌物語に使用する和歌を選ぶ。</p>	<p>・評価基準をある程度提示し、歌物語を創作する際に注意する点を確認させる。</p> <p>・課題プリント②配布</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>・積極的に自分たちの使用したい和歌を選んでいくか。</p>
第4時	<p>○グループで物語の構成を話し合い、歌物語を創作する。</p>	<p>・練った構想を元に、原稿用紙に物語を書いていく。同時に発表の際に工夫する点も話し合わせる。</p> <p>・ルーブリック配布</p>	<p>【話す・書く能力】</p> <p>・グループ内で構想を出し合い、積極的に物語り作成に参加しているか。</p>
第5・6時	<p>○創作した歌物語を発表する。</p> <p>○発表された歌物語を各自で評価する。</p>	<p>・評価表を配布・ルーブリック（前時に配布済み）を使用した評価のやり方を確認させる。</p>	<p>【読む能力】</p> <p>【話す・聞く能力】</p> <p>・各グループの発表をしっかりと聞き、要点を押さえた評価ができていくか。</p>

## 7 指導に当たって

◇授業形態の工夫

一斉学習とグループ活動（教室全体→3・4人班→教室全体）

### 8 発表時（全6時間中の第5時間目）

(1) 本時の目標

創作した歌物語を発表し、ループリックに基づいてグループで討議しながら評価をする。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	本時の学習活動の確認 ・発表と評価の方法を知る。	・各自に評価表を配布し、評価のやり方を確認させる。	(関心・意欲・態度) 評価のやり方を理解できているか。 【聞く態度】
展開 40分	・『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』から各1グループずつ創作した歌物語を発表する。(各5分) ・各グループの発表準備時間を使い、発表された歌物語をループリックに基づいて各自で評価する。	・発表を聞きながら、各自でしっかりと評価することを告げる。 ・コメントも簡潔に書くことを指示する。	(話す能力) 工夫して発表を行えたか。 【発表の内容】  (読む・聞く能力) 各グループの歌物語 …発表を聞き、適切に評価することができたか。 【評価表の内容】
まとめ 5分	・次時の活動内容を知る。	・残ったグループの発表と評価を行うことを伝える。	

(3) 板書計画

創作歌物語 本時の目標 創作した歌物語を発表し、お互いに評価する。
--------------------------------------

(4) 授業観察の観点

〈目標〉 ◇本時の指導に指導観が生かされていたか。 〈展開〉 ◇学習活動が、本時の目標を達成するための学習活動となっていたか。 ◇生徒の主体的な活動を取り入れていたか。 ◇時間の配分は適切であったか。 〈学数活動に則した評価、指導上の配慮事項〉 ◇生徒の学習意欲を高める学習活動の工夫があったか。
---



## 9 本時の評価

学習者自身が創作した歌物語を、お互いに評価することを通じて、和歌と歌物語の特質について理解が深められたか。

【資料：配布プリント】

『歌物語』課題プリント① ( ) 組 ( ) 番 氏名

問一 三大和歌集『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』について知っている事を書きなさい。

問二 現時点であなたが和歌を選びたいと考えている歌集は、三大和歌集の中のどれか、○をつけなさい。

『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』

○グループのメンバー

『歌物語』課題プリント② ( )組 ( )班

○グループで選んだ歌集 『 』

○使用した本

○歌番号、選んだ和歌(複数首可)

○選んだ和歌の解釈

(裏面)  
○創作する歌物語の構成

### 創作歌物語

課題: 三大和歌集から歌集を一つ選んだ後、グループで選んだ歌集から歌物語で使用する和歌を選び、歌物語を創作する。創作した歌物語を発表する。発表形式は自由だが、最低限朗読をすること。配役を決めて劇風に演じたり、視覚に訴える等様々に工夫しても良い。

	優秀(5)	良(3)	発展途上(1)	比重
読解力	歌集の歌風と和歌の歌意を正しく捉えており、それを的確に物語に生かしている。	歌集の歌風と和歌の歌意は総じて正しく捉えているが、一部不正確な部分もある。	歌集の歌風と和歌の歌意が捉えられておらず、的確に物語に生かしていない。	×6
オリジナリティ	歌物語は、選んだ和歌をしっかりと解釈した上で、自分たちなりの解釈を更に加えて物語の筋に生かすことができている。	歌物語には、選んだ和歌の解釈が正しく反映されているが、自分たちなりの解釈を物語の筋に生かしきれていない部分もある。	歌物語に、選んだ和歌の解釈が正しく反映されておらず、自分たちなりの解釈も生かされていない。	×5
世界観	歌物語は、想像力に富み、和歌の世界を軸にしつつも更に発展させた情緒豊かな世界観を構築できている。	歌物語は、想像力に富んではいるが、和歌の世界との乖離が見られ、ちぐはぐな印象を受ける部分もある。	歌物語に想像力が発揮されておらず、和歌に詠まれた世界との関係も無く、一元的にしか描かれていない。	×5
プレゼンスキル	発表者は、聞き手に聞こえるようにしっかりと朗読している。聞き手を引き込むように、劇風に演じたり、適切な視覚資料を使ったりなど、工夫されている。	発表者は聞こえるようにはっきりと大きな声で話しているが、だらだら話しがちである。もしくは、発表に関しての工夫が継続して、効果的に使えていないことがある。	発表が聞こえない、もしくは聞き手が理解できないくらい不明確に話している。劇風に演じたり、視覚資料を使ったりなど、聞き手を引きつけようとする試みが全くない。	×4

### 創作歌物語評価表

評価者 組 番 氏名( )

	読解力	オリジナリティ	世界観	プレゼンスキル	合計	コメント
1班					点	
2班					点	
3班					点	
4班					点	
5班					点	
6班					点	
7班					点	
8班					点	
9班					点	
10班					点	
11班					点	